令和5年12月21日
（2023年）

保護者のみなさまへ

吹田市立山田第三小学校

令和５年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生のみならず、全学年においてよりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１　教科に関する調査の分析

●国語《概要》　　全体の正答率は全国値を上回る。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと　全国値を上回る。

・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題」では、無回答率がほかの問題よりも高かった。

　自分の考えを、目的や意図、話し手の考えと比較するなど、他者意識をもって自分の考えを表現することに課題が見られると思われる。

書くこと　全国値をやや上回る。

・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」の正答率が全国値をやや上回る。

　複数の条件を提示された問題において、すべての条件を満たして解答することに課題が見られると思われる。

読むこと　全国値をやや上回る。

・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題」の正答率が、全国値を上回る。

・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかをみる問題」の正答率が、全国値を下回る。2つの資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題において、内容を要約するために必要な情報を見つけること、どの語、どの文に注目するのかを理解することに課題が見られる。

言葉の特徴や使い方に関する事項　全国値を上回る。

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」の正答率は、2問のうち1問は全国値を上回っているが、もう1問（きかん＝期間）については全国値とほぼ同じだった。

・「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題」の正答率は全国値を上回ったが、無解答率が全国値を上回った。敬語に対する理解度の差が課題である。

●国語科における成果と今後の改善点について

〇話すこと・聞くこと

・自分の考えを、目的や意図、話し手の考えと比較するなど、他者意識をもって自分の考えを表現することに課題があった。目的や意図、話し手の考えと比較し、同じところやちがうところを整理してから、自分の伝えたいことを表現する学習活動を増やしていく。また、「だれに伝えるか」という目的も明確にするよう指導していく。

〇書くこと

・複数の条件にしたがって、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書くことに課題があった。主張したい自分の考えを支える理由や具体例を、学年の実態に応じて図表やグラフを使って書く学習活動を増やしていく。また、それらを推敲したり、互いに読み合う活動を通してよりよいものにしていく学習活動を増やしていく。

〇読むこと

・物語や説明文などの文章だけでなく、表やグラフ、ポスターなどの資料を要約する学習活動や資料から目的に応じて必要な情報を抜き出したり、線を引くなどする学習活動を増やしていく。また、必要な情報を用いて、要約する指導の充実を図る。

〇言葉の特徴や使い方に関する事項

・漢字を書き取る機会を増やしていく。

・敬語について、相手や立場による表現方法の違いを指導するとともに、正しい敬語を選んだり、書いたりする学習活動を継続的に設定していく。

●算数《概要》　　全体の正答率は、全国値を上回る。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算　全国値をやや上回る。

・「加法と乗法の混合した整数の計算を、分配法則を用いて計算する問題」の正答率が全国値とほぼ同じだった。

・「小数の加法や乗法を用いた求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、日常生活の場面に当てはまるかどうかをみる問題」の正答率が全国値とほぼ同じだった。

図形　全国値をやや下回る。

・「高さが等しい三角形について、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題」の正答率が、全国値を下回った。

面積の大小を判断し、その理由を説明する時に、三角形の高さについて説明することはできているが、底辺について説明する内容が不十分だった。

変化と関係　全国値を上回る。

・「二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて記述できるかをみる問題」の正答率が全国値を上回った。しかし、「比例の関係を使って求める」方法と「1あたり量を使って求める」方法の2種類の問題のうち、「比例の関係を使って求める」方法の正答率は全国値とほぼ同じだった。比例を使った求め方を、式や言葉で説明することに課題が見られた。

データの活用　全国値を上回る。

・「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかをみる問題」の正答率が全国値をやや下回った。

●算数科における成果と今後の改善点について

〇数と計算

・複数の計算方法が混在した計算を、工夫して計算することの意味理解について課題が見られた。加法・減法・乗法・除法の4つの計算方法の基礎基本だけでなく、工夫して計算することの良さを実感できる機会を増やし、またその良さを伝え合う学習活動を増やしていく。

〇図形

・図形の性質についての理解に課題が見られた。実際に具体物を使ったり、デジタル教材を使ったりして理解を深めるように指導していく。

〇変化と関係

・二つの数量が比例の関係にある場合、それを用いた求め方や答えを式や言葉にして説明することに課題が見られた。二つの数量が比例の関係にあるかどうかを判断するだけでなく、「日常の場面」を、式や言葉と関連付けて書いたり話したりして説明する学習活動を増やしていく。

「数と計算」「図形」「変化と関係」については、扱う領域はそれぞれちがうものの、「式や言葉を用いて説明する」ことに課題があることが共通している。図や言葉、式を用いて説明するために、自分の考えを書く時間を確保するとともに、学習した言葉を使って説明できるよう学年の実態に応じて系統立てて指導していく。

〇データの活用

・表を縦と横で読み取る二次元の表から、問題の情報の読み取りに課題が見られた。低学年の時から、グラフや表の見方、データから必要な数値を読み取るなど、学習活動の機会を増やしていく。

２　生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値をやや上回った。いじめ予防授業において、具体的な事例で考えたり、伝え合ったりして共感し合える授業の取り組みがこの結果につながっていると考えられる。

・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値を下回った。今後、児童が自信をもって相談できるような信頼関係づくりや環境づくりを進めることが必要であると考えられる。

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値を下回り、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の設問では、否定的な回答の割合が全国値を上回った。学校生活の中で、児童がより充実感や達成感を得られるような工夫が必要であると考えられる。

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれているか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値を上回り、「自分にはよいところがあると思うか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値とほぼ同じであった。昨年度と比べて自分に自信のある児童が増えてきていると考えられる。

【教科・学習について】

・「5年生までに受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」という設問では、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた児童の割合が全国値を上回ったが、「ICT 機器を使うことは勉強の役に立つと思うか」という設問では「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と答えた児童の割合が、全国値をやや下回った。引き続き

意見交換や、考えをまとめ発表、調べ活動といった学習活動での活用を進める。

・国語の授業では、「よく分かる」と回答した児童の割合が全国値をやや上回った。しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の設問では、肯定的な回答の割合が全国値をやや下回った。国語の学習が将来のどのような場面で活用できるかを理解することに課題が見られた。

・算数については「言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く問題でどのように取り組んだか」の設問では、「努力した」「あきらめなかった」と回答した児童の割合が全国値を上回り、すべての児童が最後まで取り組むことができた。しかし授業では、「好きか」「大切だと思うか」「よく分かるか」「役に立つと思うか」の4つの設問で、肯定的な回答の割合が全国値をやや下回った。最後まで取り組む姿勢はあるが、前向きに意義を感じて学習に向かうことに課題が見られた。

３　今後の取り組み

本校では昨年度に引き続き「自ら課題をもって主体的・意欲的に学ぶ子の育成」という研究テーマに取り組んでいます。教科に関する結果を踏まえ、児童が主体的に「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」等、児童一人ひとりの学びに対する思いを大切にし、自分の考えを相手に伝わるように表現する力を身につけられる授業改善を、学校全体で取り組んでいきます。そのために、各教科の学習学んだ言葉をその都度児童とともに共有すること、思いや考えを説明するときには、文字だけでなく、グラフや表などの資料、図や式などを使って説明できるようにすることを目指していきます。ICTの活用では、端末を学習のために使うツールとして扱う機会が増えてきています。今後の社会では、ICTを活用しなくてはならない場面が数多く出てきています。デジタル・シティズンシップ教育を引き続き推進していくとともに、各教科の学習場面においてICT機器を効果的に使う機会をより一層増やしていきたいと思います。

クラスや学年での集団生活においては、人と関わりながら自他の良さに気づき、互いに認め合うこと、そして困ったことや不安に感じたことを互いに受け止め、相手の気持ちを思いやりながら協力できる人間関係づくりが一層求められます。他者と関わることの大切さに気づけるよう、仲間づくりをはじめとした人権教育により一層力を入れるとともに、山三小の全教職員が児童一人ひとりの困り感を捉え、対応していけるよう努めてまいります。

今回の全国学力・学習状況調査から明らかとなった課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、自らの考えを深められるような学校教育活動の充実を図ってまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。